

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】平成 19 年 7 月 19 日 (2007.7.19)

【公開番号】特開 2005-354385 (P2005-354385A)
【公開日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)
【年通号数】公開・登録公報 2005-050
【出願番号】特願 2004-172786 (P2004-172786)
【国際特許分類】

H 0 4 N 5/16 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/16 A

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 5 日 (2007.6.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

入力されたアナログ映像信号をデジタル映像信号に変換する A/D コンバータと、
前記 A/D コンバータから出力されたアナログ映像信号中の同期信号を検出する同期信号
検出手段と、

前記同期信号検出手段の出力に応じて前記デジタル映像信号のペデスタルレベルを検出
するレベル検出手段と、

前記レベル検出手段が検出した前記ペデスタルレベルと目標値との差分値を出力する差
分出力手段と、

前記差分出力手段の出力に対してシグマデルタ変調処理を行う変調手段と、

前記変調手段の出力に応じて前記 A/D コンバータに入力されるアナログ映像信号のペデ
スタルレベルを制御するクランプ手段と
を備えることを特徴とする信号処理装置。

【請求項 2】

前記クランプ手段は、前記変調手段の出力が入力されるローパスフィルタを含むことを
特徴とする請求項 1 に記載の信号処理装置。

【請求項 3】

前記変調手段の動作周波数が前記アナログ映像信号におけるカラーサブキャリア信号周
波数の n 倍 (n は整数) であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の信号処理装置。

【請求項 4】

前記変調手段が出力する信号の出力期間を設定する期間設定手段を備えることを特徴と
する請求項 1 乃至 3 の何れか 1 項に記載の信号処理装置。

【請求項 5】

前記差分出力手段の出力に基づいて前記 A/D コンバータから出力されたデジタル映像信
号に対してペデスタルレベルのフィードフォワード制御を行うフィードフォワード制御手
段を備えることを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れか 1 項に記載の信号処理装置。

【請求項 6】

前記 A/D コンバータ、前記同期信号検出手段、前記レベル検出手段、前記差分出力手段
、及び前記変調手段は、同じ集積回路上に構成されていることを特徴とする請求項 1 に記
載の信号処理装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】信号処理装置

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、信号処理装置に関する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本発明は、上述した事情を考慮してなされたもので、従来のクランプ回路のように電流源やビデオアンプを利用することなく、アナログ映像信号のペDESTALレベルをクランプ制御可能にすることを目的とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

この発明は、上述した課題を解決すべくなされたもので、入力されたアナログ映像信号をデジタル映像信号に変換するA/Dコンバータと、前記A/Dコンバータから出力されたアナログ映像信号中の同期信号を検出する同期信号検出手段と、前記同期信号検出手段の出力に応じて前記デジタル映像信号のペDESTALレベルを検出するレベル検出手段と、前記レベル検出手段が検出した前記ペDESTALレベルと目標値との差分値を出力する差分出力手段と、前記差分出力手段の出力に対してシグマデルタ変調処理を行う変調手段と、前記変調手段の出力に応じて前記A/Dコンバータに入力されるアナログ映像信号のペDESTALレベルを制御するクランプ手段とを備えることを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

本発明によれば、従来のクランプ回路のように電流源やビデオアンプを利用することなく、アナログ映像信号のペDESTALレベルをクランプ制御可能にすることができる。